

氏名	正 路 浩二郎
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1728 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学 位 論 文 題 目	脳卒中におけるビタミンEと過酸化脂質 第1編 脳卒中における血清ビタミンE、過酸化脂質の経時的変動 第2編 脳卒中発作後の血清ビタミンE、過酸化脂質、総コレステロール、遊離脂肪酸に対するビタミンE投与の影響
論 文 審 査 委 員	教授 長島秀夫 教授 太田善介 教授 西本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

脳卒中発症後より血清ビタミンE、過酸化脂質、総コレステロールを経時的に検討した。脳卒中発症後血清ビタミンEは有意に低下し、過酸化脂質は上昇し、いずれも1週間後より徐々に正常化していく傾向を認めた。総コレステロールは発症後より徐々に低下していた。血清過酸化脂質、ビタミンE、総コレステロールの変動から考えて、脳卒中発症後血清ビタミンEの低下する一機序として、ビタミンEが脳血管障害部位で産生される過酸化脂質の増加を抑制するために消費される可能性が考えられた。

次に脳卒中急性期よりビタミンEを4週間投与し、非投与群と比較検討した。ビタミンE投与により血清ビタミンEは著明に上昇したが、総コレステロール、遊離脂肪酸分画のリノール酸、オレイン酸比は有意の変化を示さなかった。ビタミンE投与により脳卒中発症後にみられる血清過酸化脂質の上昇は明らかに抑制された。脳卒中発症前から血清ビタミンEの低下している例もあり、血清ビタミンEの低下は脳卒中の危険因子の1つになり得る可能性も考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は脳卒中におけるビタミンEと過酸化脂質について研究したものであるが、ビタミンEが脳血管障害部位で産生される過酸化脂質の増加を抑制するために消費されることやビタミンEの低下が脳卒中の危険因子の1つとなりうること等臨床的に重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。